

概要説明書(その2)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
新技術の概要 ※検索結果に表示する技術の概要です(全角120文字以内)			
<ul style="list-style-type: none"> 側溝天端内に縁石が収まる構造とし、側溝表面のエプロン部を狭くした事により自転車の車輪は側溝天端を走行することなく、道路横断勾配のアスファルト上を走行でき、快適で安全な自転車走行空間が実現し、縁石は分離構造とし、取替えを容易とした。 			
新技術の概要			
<p>①何について何をする技術か？</p> <ul style="list-style-type: none"> 側溝天端内に縁石が収まる構造とし、側溝表面のエプロン部を狭くした自転車対応ライン側溝です。 <p>②従来はどのような技術で対応していたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 管渠型側溝+縁石 <p>③公共工事のどこに適用できるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路新設、改良工事等の道路側溝に適用、特に自転車道整備及び、排水性舗装道路側溝。 			
新技術のアピールポイント(課題解決への有効性)			
<ul style="list-style-type: none"> 縁石の基礎工が不要で分離構造とした事により、施工及び取替えが容易となる。 側溝表面のエプロン部を狭くした事により、自転車走行を快適で安全な走行を可能とした。 			
新規性及び期待される効果			
<p>①どこに新規性があるのか？(従来技術と比較して何を改善したのか？)</p> <ul style="list-style-type: none"> 縁石が管渠型側溝天端内に収まり分離構造とした。 管渠型側溝天端幅を42mmとした事で、自転車の車輪はアスファルト上を安全に走行できる。 <p>②期待される効果は？(新技術活用のメリットは？)</p> <ul style="list-style-type: none"> 縁石の基礎工が不要となり分離構造の為、取替えが容易となる。 路肩部のアスファルト舗装を広く確保でき、外側線を確実に引く事ができる。 			
適用条件			
<p>①自然条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨天時は施工不可。 <p>②現場条件</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品据付に必要な建設機械等の設置スペース及び、製品の仮置き場が必要。 <p>③技術提供可能地域</p> <p>福岡県内</p> <p>④関係法令等</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし 			

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その3)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
適用範囲			
<p>①適用可能な範囲（公共工事への適用性は必ず記入する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水構造工、管渠型側溝(300型) ・対応荷重T-25(縦断用) ・排水性舗装対応 ・集水タイプ対応(グレーチング部は専用の縁石を採用) ・縁石はA種、B種、C種、セミフラット、マウンドアップ、乗入に対応 <p>②特に効果の高い適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通行が多い場所 ・工期短縮を期待する現場 ・外側線が引けない場所 <p>③適用できない範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管渠型側溝300を超える側溝 			
ニーズへの対応			
<p>①社会的ニーズへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・側溝表面のエプロン部を狭くした事により、自転車はアスファルト上を安全・快適に走行でき、分離構造とし取替えを容易とした。 <p>②県土整備部発注工事への対応(道路、河川、ダム、港湾、海岸、砂防、地すべり、急傾斜地に関する事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路新設、改良工事等、排水構造物として対応可能。 			
留意事項			
<p>①設計時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>②施工時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・側溝表面の流入孔に土砂が入り込まないように注意する。 <p>③維持管理時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 <p>④その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 			

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その4)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
--------	----------------	--------	----------

活用の効果				
比較する従来技術	管渠型側溝+縁石			
項目	活用の効果			比較の根拠
経済性	<input checked="" type="radio"/> 向上 (2%)	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下 ()	・管渠型側溝天端内に縁石が収まる為、基礎工が不要。
工程	<input checked="" type="radio"/> 短縮 (6%)	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 増加 ()	・管渠型側溝天端内に縁石が収まる為、基礎工が不要。
品質	<input type="radio"/> 向上	<input checked="" type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	
安全性	<input type="radio"/> 向上	<input checked="" type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	
施工性	<input checked="" type="radio"/> 向上	<input type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	・管渠型側溝天端内に縁石が収まる為、基礎工が不要。
環境保全	<input type="radio"/> 向上	<input checked="" type="radio"/> 同程度	<input type="radio"/> 低下	

基準数量	10	単位	m
	新技術(A)	従来技術(B)	変化値1-A/B(%)
経済性	159,580円	162,540円	2%
工程	1日	1日	6%

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その5)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
--------	----------------	--------	----------

活用の効果の根拠

●新技術の内訳

基準数量: 10m あたり

項目	仕様	数量	単位	単価(円)	金額(円)	摘要
側溝本体	300×300×2000	5	本	14,700	73,500	御見積
側溝本体据付	バックホウ運転、基礎砕石、諸雑費	10	m	4,733	47,330	平成23年度版国土交通省土木工事積算基準
縁石(両面A)	150/190×200×2000	5	本	3,950	19,750	建設物価/2019・4月
縁石据付	バックホウ運転、諸雑費	10	m	1,900	19,000	平成23年度版国土交通省土木工事積算基準
合計					159,580	

●従来技術の内訳

基準数量: 10m あたり

項目	仕様	数量	単位	単価(円)	金額(円)	摘要
側溝本体	300×300×2000	5	本	14,700	73,500	御見積
側溝本体据付	バックホウ運転、基礎砕石、諸雑費	10	m	4,733	47,330	平成23年度版国土交通省土木工事積算基準
縁石(両面A)	150/190×200×2000	5	本	3,950	19,750	建設物価/2019・4月
縁石据付	バックホウ運転、基礎砕石、諸雑費	10	m	2,196	21,960	平成23年度版国土交通省土木工事積算基準
合計					162,540	

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その6)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
--------	----------------	--------	----------

施工単価	<input type="radio"/> 歩掛りなし <input checked="" type="radio"/> 歩掛りあり (歩掛り種別) <input checked="" type="radio"/> 標準 <input type="radio"/> 暫定 <input type="radio"/> 協会 <input type="radio"/> 自社
------	--

・平成23年度版 国土交通省土木工事積算基準
 ・平成29年度 国土交通省土木工事標準積算基準

施工方法

- ①床堀
- ②基礎砕石
- ③敷きモルタル
- ④自転車対応ライン側溝据付
- ⑤縁石敷きモルタル
- ⑥縁石設置
- ⑦埋戻し
- ⑧埋戻し完了

残された課題と今後の開発計画

①課題
 ・側溝規格400×400×2000の対応

②計画
 ・検討中

施工実績	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
福岡県が発注した工事	件	
他の公共機関が発注した工事	件	
民間等が発注した工事	件	

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その7)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝			※登録No.	1901006A
特許・実用新案				番 号	
特 許	<input type="radio"/> あり	<input checked="" type="radio"/> 出願中	<input type="radio"/> 出願予定	<input type="radio"/> なし	特願2019-030289
実用新案	<input type="radio"/> あり	<input type="radio"/> 出願中	<input checked="" type="radio"/> 出願予定	<input type="radio"/> なし	
他の機関による 評価・証明	証明機関				
	制度名				
	番号				
	評価等年月日				
	証明等範囲				
	URL				
添付資料					
<p>○実験資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流入量試験 ・曲げ載荷試験 <p>○積算資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・据付工(自転車対応ブロックベース側溝+縁石) ・据付工(管渠型側溝+縁石) ・建設物価 2019年4月 ・御見積書 <p>○施工管理方法資料等</p> <p>○出来形管理方法資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出来形管理基準及び規格値(側溝工 I-17) <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較図 ・リーフレット 					
参考資料					
<p>○国土交通省土木工事積算基準(平成23年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・裏込砕石工 ・路側工(歩車道境界ブロック据付) ・排水構造物(管(函)渠型側溝据付) <p>○土木工事設計要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三編 道路編 					

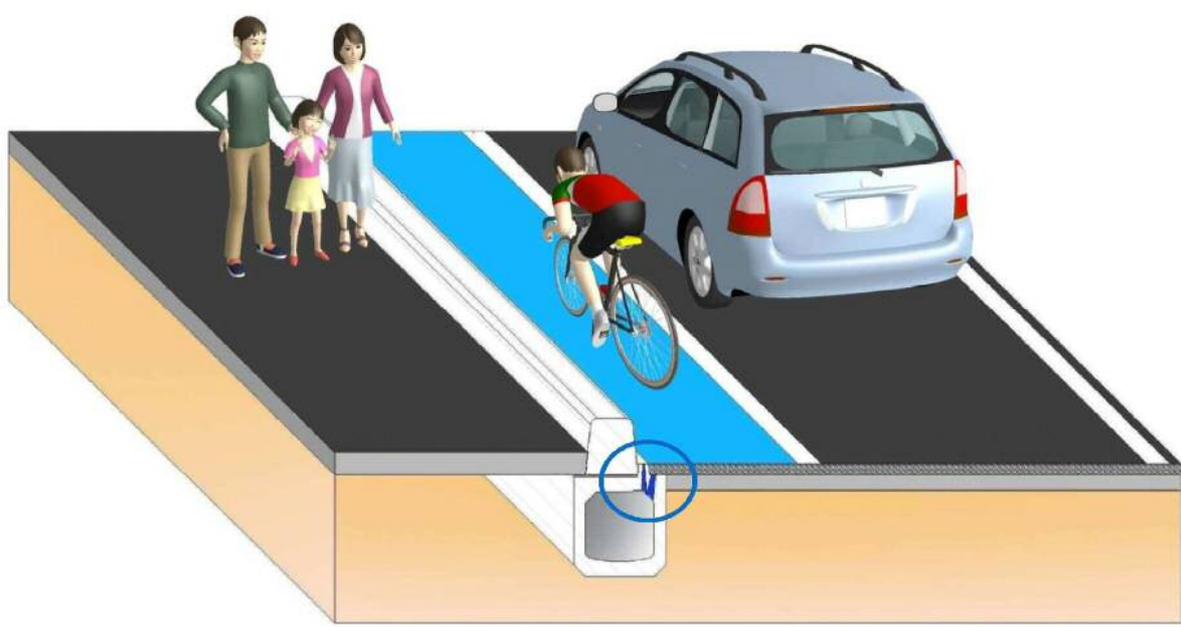
※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その8)

新技術の名称	自転車対応ブロックベース側溝	※登録No.	1901006A
--------	----------------	--------	----------

概要図、写真等

イメージ図



管渠型側溝 300型	自転車対応ブロックベース側溝 300型

※の欄は、記入の必要がありません。

概要説明書(その9)

新技術の名称		自転車対応ブロックベース側溝		※登録No.	1901006A
施工実績一覧					
区分	発注者	地域機関名	施工時期	工事名	CORINS登録No.
県内における施工実績					
県外における施工実績					

※の欄は、記入の必要がありません。